

1 前回のリアクションをみての感想、 成長・教育目標と道德教育の内容項目との関係 一人一人考え方が異なる。自分が目指す教師像というものを各個人言葉で表している。長い文章で書いてる事によってその人の思いがすく伝わってくる。

道德教育の年明けから意識して生活する事で自分の成長につながる教師としての目標が見えてくる。

2 (新) 学習指導要領「生きる力」総則 「編成の一般方針」の要点

「学習指導要領」では小・中・高ごとにそれぞれの教科等の目標や大まかな教育内容を定めて

学校教育法等に基づき、各学校で教育課程を編成する際の基礎を定めている。

「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況に柔軟に対応できる思考力・判断力・表現力等」の育成、

「学びを人生や社会に活かそうとする学びに向かう力・人間性の育成」の3本の柱を実現すること。

3 学習指導要領の変遷 (テキスト『教育の基礎と展開』第6章 教育課程・

カリキュラム 参照) その特徴を記す

1 1947,51 (昭和 22,26) 年版 (試案)

アメリカ教育使節団が来日した事により最初の学習指導要領案が発行された。これを出発点とし独自の教育方針が作られてきた。私達の中学校などで習った公民・地理・歴史が廃止され社会・家庭・自由研究の3科目が新設された。第一と同じなのではなく何年かに確認をし時代と共に進化している。

2 1958,60 (昭和 33,35) 年度

高度経済成長が進展した事により科学技術の向上、人材育成への対応が求められるようになった。基礎学力向上のため前年度と同じ時間を覚えるようになるのではなく、より深く学ぶようになった。

3 1968 ~70 (昭和 43~45) 年度

時代がたつと社会は「教育の現代化運動」が世界規模で展開してきた。小学校の教育課程では算数と理科が重視されるようになった。集団としての活動に関わる人間形成を目指した。

4 1977,78 (昭和 52,53) 年度

授業をたくさん行なうのではなく一回、一回の授業で生徒にしっかりと教えることが大切。理解していない状態で次の授業に進んでしまうため「落ちこぼれ」が増えたと学校現場から言われていった。これを生かして「知りある充実した」学校生活が目標になった。

5 1989 (平成元) 年度

教育課程は各科目から高校までを一貫したものとすると、小学校低学年では「生活科」が新設された。高校では社会科が地理歴史科と公民科とに再編され家庭科が必修となった。

6 1998,99 (平成 10,11) 年度

大学生の学力低下問題や国際学力調査の結果から「学力低下」問題が顕著になった。このことから学習指導要領は最低水準ながらも記載し内容を充実させた指導ができていた。

7 2008,2009 (平成 20,21) 年度

全国学力・学習状況調査を行い、結果から「思考力・判断力・表現力等」に関する読解力や言語知識・知識・技能を活用する問題、結果が明らかになった。また「道徳」も教科書を作成し初

8 2017年 新学習指導要領

措置として取り組みが可能になった。

昔は外国語活動が週一回などに行われていなかったがこの年からは小学校3・4年生「外国語活動」が導入された。5・6年では「外国語科」が導入された。

2016年には選挙権が18歳以上を引き下げた能力の育成、生活に必要とする力を育成することを目指した。

2020年には東京オリンピック開催のため、小学校低学年から外国語活動を授業として

生きる力

個性

多様な人々の協働

言語活動

学習習慣

思慮中心主義

基礎学力

学習中心

人間中心

個性重視

総合的学習

知識基礎社会

主体的

対話的

深い学び

1 前回のリアクションをみての感想、 成長・教育目標と道徳教育の内容項目との関係

教育目標と道徳教育との関係は、1,2番がわかっていた。3,4番も考えていくべきだと思
いながらも決ま書いている。人の目標と自分の目標を比べてみると、みんなしっかりした根
拠と目標を持って大学で取り組んでいる人など良くなりました。私ももっと充実しようと、東洋
を受けました。

2 (新) 学習指導要領「生きる力」総則 「編成の一般方針」の要点

教育基本法及び学習教育法に掲げる目標を達成する。主体的・対話的で深い学び
現して児童に生きる力を育む。基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ主体的に
取り組む態度を養い、個性と豊かな心や創造性の涵養を目指す。多様な人材の確保に
貢献して学習習慣をつける。道徳教育と教育活動の主体を通じて伝統と文化を尊重する。
他国を尊重する。家族や地域社会との連携をして、カリキュラム・マネジメントに努める。

3 学習指導要領の変遷 (テキスト『教育の基礎と展開』第6章 教育課程・

カリキュラム 参照) その特徴を記す

1 1947,51 (昭和 22,26) 年版 (試案)

「アメリカ教育使節団報告書」では、アメリカの「コース・オブ・スタディ」をモデルとする最初の学習指導
領が発行された。児童中心主義・教授主義を導入し、子どもの興味や自発性を重視して
とした。教師が地域性や学生の場に応じた自主的な教育内容を作成する際の指導力が求められる。
高度経済成長の進展にあわせて科学技術の向上に向けた人材育成への対応が求められる。一方
系統学習の必要性を求め、増加した。系統性を重視し、第一に基礎学力の充実のため
技術科目、算数を重視して時間を増やした。科学技術教育の向上、道徳教育の徹底が求められる。

2 1958,60 (昭和 33,35) 年度

「学習中心カリキュラム」による「教育の現代化運動」が世界規模で展開される。算数と理科を重視する。

3 1963 ~ 70 (昭和 43 ~ 45) 年度

「学習中心カリキュラム」による「教育の現代化運動」が世界規模で展開される。算数と理科を重視する。

4 1977,78 (昭和 52,53) 年度

「人間中心カリキュラム」を導入して、「ゆとりある充実した」学校生活が目標となる。

「人間中心カリキュラム」を導入して、「ゆとりある充実した」学校生活が目標となる。

5 1989 (平成元) 年度

臨時教育審議会「中間報告」で、個性を重視し、生涯学習体系への移行。国際社会への貢献と情報化への対応、必要だと提言。社会の変化に自ら対応できる自己努力を促す。生活科の導入。自ら学ぶ意欲と社会に主体的に対処する能力、関心・意欲・態度、思考・判断、新しい

6 1998,99 (平成 10,11) 年度

自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する。豊かな人間性と、健康な体力、学校生活と社会生活の導入、教育内容の審判削減。

7 2008,2009 (平成 20,21) 年度

「知識基礎社会」幅広い知識と柔軟な思考力。生きる力とキー・コンピテンシーの力。充実した人生をおくる。

8 2017年 新学習指導要領

自ら考え述べることを課題解決に生かすこと。「主体的・対話的で深い学び」
「カリキュラム・マネジメント」「外国語科」の重視